

## 平成19年度 第1回河川工作物WG結果概要

### 1 日時

平成19年9月11日（火）14:30～16:30

〃 9月12日（水）9:10～18:00

### 2 場所

- (1) 斜里町漁村センター（9月11日（14:30～15:00））
- (2) イワウベツ川支流赤イ川（9月11日（15:30～16:30））  
ポンプタ川、ルシャ川（9月12日（9:10～12:30））
- (3) 羅臼町商工会館（9月12日（15:00～18:00））

### 3 出席者

- (1) 委員（五十音順、敬称略）  
岡部 健士 徳島大学工学部教授  
小宮山 英重 野生鮭研究所  
妹尾 優二 流域生態研究所  
中村 太士 北海道大学大学院農学研究科教授（座長）
- (2) オブザーバー  
大泰司紀之 北海道大学名誉教授（知床世界遺産地域科学委員会委員長）
- (3) 関係行政機関  
斜里町、羅臼町
- (4) 事務局  
林野庁北海道森林管理局、環境省釧路自然環境事務所、北海道

### 4 議題

- (1) 打合せ会（斜里町漁村センター）  
ア 平成19年度河川工作物ワーキンググループのスケジュールについて  
イ 第1回河川工作物ワーキンググループについて
- (2) 現地検討  
ア 平成19年度影響評価対象河川（ポンプタ川）  
イ 平成18年度改良河川工作物（イワウベツ川支流赤イ川、ルシャ川）
- (3) 検討会（羅臼町商工会館）  
ア 平成19年度影響評価対象河川及び平成18年度河川工作物改良箇所について  
イ 河川工作物の改良工法について  
ウ 平成19年度改良効果検証のためのモニタリングの実施について

### 5 概要

検討会（羅臼町商工会館）において、各委員から以下のような意見が出された。

- (1) 平成19年度影響評価対象河川（ポンプタ川）について

(委員A)

最下流のダム下にはオショロコマが生息しており、ダムにより遡上できない現状にあるが、ダム上の環境は物理的に遡上させるのは困難な環境にある。

(座長)

定置網の保全のためにダムが必要であることは理解できるが、過去にどのような漁業被害があったのか、ダムとの関係を調べる必要がある。

ポンプタ川の改良の影響評価は次回に行うが、改良効果はそれほどないと思う。

## (2) 平成18年度河川工作物改良箇所について

ア ルシャ川

(委員B)

ダム改良により、遡上機能は果たしている。

(座長)

上手くいっていることが、北海道によるモニタリング結果の概要報告からも分かった。

イ イワウベツ川支流赤イ川

(委員B)

今の状態が維持されるならば遡上は大丈夫であるが、石をワイヤーで繋いでいるので河床が変化すると心配である。

(委員C)

先の台風である程度の被害ならば大丈夫かと思うが、コンクリートの部分の凸凹を大きくした方が水の少ないときには遡上しやすいと思う。

(委員A)

現状のままでも数年は大丈夫と思うが、堤体とに間に落差ができ遡上困難になる可能性があるので、堤体に切り欠きを入れた方がいいのではないかと。

(座長)

今のところは、上手くいっていると思っているが、将来ワイヤーが切れてどのようなかたちになるのが心配だ。

改良したダムの下側に段差ができないのか、また、上のダムを改良したときに、土砂がどのように供給されるのが気がかりである。

## (3) 河川工作物の改良工法について

ア イワウベツ川支流ポンプタ川（北海道森林管理局）

(委員C)

斜路魚道の横断面底辺は、水深の確保の上からもV字形がいいと思う。

スリット幅が2 m だが、流木が引っかからないかが心配。

(座長)

方向性については、これで良い。

イ サシルイ川（北海道治山課）

(委員A)

1 基目のダムには、多くの人に遡上する状態を見せることができるよう、引き込み式魚道をダ

ムの真ん中に設置してはどうか。

また、稚魚の殆どは、魚道ではなくダム本体を落下して降下するので、そのことも考えた方が  
良い。

(座長)

今回の工事による、遡上効果を概数でいいので示してほしい。

(委員C、委員B)

1基目の魚道の位置は、水の流れから考えると左右逆になり、この位置では砂の溜まる懸念が  
ある。

ウ 羅臼川（北海道砂防災害課）

(委員B)

魚道内には土砂が貯まってもかまわないと思うが、最下段で土砂が流されて段差が出来ないよ  
うにすることが必要。

(委員A)

水のエネルギーを吸収してやることを考えないと、落差が出来てしまうのではないか。

(委員C)

魚道下流端の水受け用ブロックについては、水平に配置すると水が走って河床が掘れてしま  
うので、上流側に土砂を巻き上げるよう3割程度の角度で落とすことが必要。

左岸側にスリットを切ると河床が多少低くなるので、護岸の手当が必要になると思う。また、  
現在の流路幅から考えると、スリットは右岸側だけで良いのではないのか。

(座長)

左岸側のスリットを閉じて左岸を守ると言う選択肢もあっても良いのかと思う。

(委員A)

工事用の道は、メンテナンスにも使えるようにすることが必要。また、啓蒙・教育上から、河  
床に下りれるようなことも検討すべき。

エ イワウベツ川支流赤イ川（斜里町）

(委員B、委員A)

このような石組施工では、本流との合流点において新たな段差ができるので工夫が必要。

(委員C)

急勾配の所で斜路を作るのは難しいので、導水管の一部3 m程度をV字型に折り曲げてはど  
うか。

(座長)

当該ダムの上流に設置してある森林管理局の残り2基に施工の時期を合わせることなく、先に  
着手してほしい。

#### (4) 改良効果検証のためのモニタリングについて

(委員C)

河床変化を把握するための縦横断測量はあまり意味がない、写真撮影でも十分である。

(座長)

対外的に河床変化について説明するためには、縦横断測量は必要である。